

「伝統と文化」を大切にする教育実践事例

② 第3学年 国語科（下） 単元名「声に出して楽しもう」教材名「一茶・百人一首など」学習指導略案

第3学年 国語科（下） 単元名「声に出して楽しもう」教材名「一茶・百人一首など」 案

時数（実施時期）：1時間（10月下旬～11月上旬）

⇒3時間

◇本単元の目標

知っている言葉を手がかりに情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取ったりしながら短歌や俳句を音読し、文語の調子に親しむことができるようにする。

⇒ここで一工夫！！

本単元「声に出して楽しもう」は、学習指導要領の「伝統的な言語文化に関する事項」に対応したものである。子どもたちは「声に出して楽しもう」という単元名のとおり、何度も音読したり暗唱したりする中で、五七の調子や、文語の響きに親しむ。また、本単元での学びは、「伝統と文化」と子どもの距離を縮めるよい機会になり、京都と短歌・俳句のつながりを感じる機会にもなると考える。

そこで、1時間設定を3時間設定にし、「京都の景色を詠んだ短歌や俳句」を詠んだり、子ども自ら京都の景色を入れた短歌や俳句を書き表す活動を単元の中に取り入れることで、子どもが短歌や俳句は教科書に載っているものだけではなく、「京都に関わりの短歌や俳句がある。」「社会科の学習で学んだり、行ったりした地域のことが短歌や俳句になっている。」と実感することができるようにする。



学習を通して、子どもたちが京都に縁のある短歌と俳句という言語文化に親しむ態度や、それらを大切にしようとする心の育成につながる。

- 1 日 時 平成○年○月○日 (○) ○校時
- 2 単元名 「声に出して楽しもう」
- 3 単元の目標 知っている言葉を手がかりに情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取ったりしながら短歌や俳句を音読し、文語の調子に親しむことができるようにする。
- 4 本時の目標 五七調や七五調のリズムをつかんで短歌と俳句を読む。
- 5 本時の展開 1 / 3 時間

学習活動	主な発問 (◇) 主な指示 (□) 予想される児童の反応 (・) 「学習課題」あるいは「学習のめあて」	必要な資料など (◆) 伝統と文化に関わって必ず提示する資料 (㊟)	支援 (*) 留意点 (○) 評価 【但し、「地域で学ぶ強み」となる素材をどのように学習活動に組み込むのか、その支援については、㊟及び 太字ゴシック で示す。】
1 既習事項について振り返る。	□国語 三 (上) わかば 単元「声に出して読もう」の学習で学んだ短歌と俳句について振り返りましょう。 ・短歌は五・七・五・七・七の31音からできていたのだったね。 ・俳句は、五・七・五の17音からできており、普通、季節を表す言葉が入っているのだったね。 ・「かすみたつながきはるひにこどもらとてまりつきつつこのひくらしつ」(良寛)は、短歌だね。 ・「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」(松尾芭蕉)は、俳句だね。	◆国語 三 (上) わかば 単元「声に出して読もう (48 ページ～50 ページ)」の短歌と俳句を掲示物にしたもの (側面に掲示する)。	*国語 三 (上) わかば 単元「声に出して読もう (48 ページ～50 ページ)」の学習で学んだ短歌と俳句を分類する活動を入れることで、短歌は31音から成っていること、俳句は17音から成り、普通、季節を表す言葉が入っていることを振り返ることができるようにする。
2 本時の学習のめあてを把握する。	今日、学習する短歌と俳句の中からお気に入りを見つけよう。 □「天の原振りさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」(安倍仲磨)と「さみだれや大河を前に家二軒」(与謝蕪村)を短歌と俳句に分類しましょう。	◆国語 三 (下) おおぞら 単元「声に出して読もう (38 ページ～39 ページ)」短歌と俳句を掲示物にしたもの (空欄部分あり)。	*板書には、短歌2首と俳句3句を提示する。その中の、短歌1首と俳句2句に空欄の部分をつくることで、空欄の部分にはどのような言葉が入るかを選択肢の中から選び、書き込む活動ができるようにする。 ○短歌や俳句によまれている大意について、簡単に補説する。「天の原振りさけ見れば春日なる三笠の山に出で

<p>3 本単元の短歌と俳句の空欄部分にどのような言葉が入るのかを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「天の原振りさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」(安倍仲麿)は短歌だね。 ・「さみだれや大河を前に家二軒」(与謝蕪村)は俳句です。 <p>□短歌と俳句の空欄部分にどのような言葉が入るのかを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「久方の光のどけき [] 静心なく花の散るらむ」(紀友則)の空欄部分には、「春の日に」が入ると思います。なぜなら「花の散るらむ」につながる言葉だからです。 ・「 [] まけるな一茶これにあり」(小林一茶)には、「痩せ蛙」が入ると思います。蛙にまけるな、と声をかけているように感じるからです。 ・「荒海や佐渡によこたふ []」(松尾芭蕉)には、「天の河」が入ると思います。荒々しい海に河が流れ込む感じがするからです。 	<p>◆ワークシート</p> <p>◆空欄部分に該当する言葉カード⇒「春の日に」「痩せ蛙」「天の河」</p>	<p>し月かも」(安倍仲麿)⇒遠く大空を見れば、月が出ている。昔、春日の三笠山にのぼり、眺めた月とおなじだなあ。「さみだれや大河を前に家二軒」(与謝蕪村)⇒五月雨(今で言うと梅雨)に増水した大河を前にして、二軒の小さな家が心細く寄り添うように建っているよ。</p> <p>○短歌と俳句の空欄部分にどのような言葉が入るのかを考えることができるように、短歌や俳句によまれている大意を補説する。「久方の光のどけき春の日に静心なく花の散るらむ」(紀友則)⇒日の光が柔らかに降り注ぐ穏やかな春の日なのに、どうして落ち着いた心なしに桜の花が散ってゆくのだろう。「痩せ蛙まけるな一茶これにあり」(小林一茶)⇒痩せ蛙よ、負けてはならぬ。一茶がここで応援しているよ。「荒海や佐渡によこたふ天の河」(松尾芭蕉)⇒日本海の荒波。そのかなたの佐渡島の上には、天の河が白々と横たわっている。</p> <p>○個人での学びとペアでの学びを行った上で、全体で確認する場を設ける。</p>
<p>4 京都の地名が入る短歌があることを知る。</p>	<p>◇「大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず []」(小式部内侍)の空欄部分には、何が入るのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天の橋立が入るのだね。 ・「京都の地図帳」に「天の橋立」が載っているね。 ・天の橋立に行ったことがあるよ。 ・京都の地名が入った短歌があるのだね。 	<p>㊦「百人一首を楽しもう(130ページ～135ページ)」の短歌…「大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立」(小式部内侍)</p> <p>㊦社会科副読本わたしたちの京都「京都の地図帳」</p>	<p>㊦「大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立」(小式部内侍)の空欄の部分には「天の橋立」が入ることを社会科副読本わたしたちの京都「京都の地図帳」を活用して確認することで、第2時の学習につながるようにする。</p> <p>○「大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立」(小式部内侍)⇒大江山を越えて行き、生野を通って行く、その道のりが遠いので、私はまだその天の橋立の地を踏んでみたこともなく、母からの手紙も見ていません。</p>
<p>5 短歌と俳句を声に出して読む。</p>	<p>◇気に入った短歌と俳句を声に出して読みましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・俳句は何も見ずに読むことができるよ。 	<p>【言語についての知識・理解・技能】 五七調や七五調のリズムをつかんで短歌と俳句を読んでいる。(音読・ワークシート)</p>	

「声に出して楽しもう」

※側面に掲示する。

短歌

五・七・五・七・七

三十一音

かすみたつながきはるひにこどもらとてまりつきつこのひくらしつ (良寛)

俳句

五・七・五

十七音

季節を表す言葉が入っている

閑かさや岩にしみ入る蟬の声 (松尾芭蕉)

学習のめあて 今日、学習する短歌と俳句の中からお気に入りを見つけよう。

短歌…二首

天の原振りさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも (安倍仲麿)

久方の光のどけき 静心なく花の散るらむ (紀友則)

春の日に

大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず

天の橋立↓

京都の場所が入った短歌。

俳句…三句

さみだれや大河を前に家二軒 (与謝蕪村)

まけるな一茶これにあり (小林一茶)

痩せ蛙

荒海や佐渡によこたふ (松尾芭蕉)

天の河

- 1 日 時 平成○年○月○日 (○) ○校時
- 2 単元名 「声に出して楽しもう」
- 3 単元の目標 知っている言葉を手がかりに情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取ったりしながら短歌や俳句を音読し、文語の調子に親しむことができるようにする。
- 4 本時の目標 京都に縁のある短歌や俳句があることに気づき、五七調や七五調のリズムを感じながら読む。
- 5 本時の展開 2 / 3 時間

学習活動	主な発問 (◇) 主な指示 (□) 予想される児童の反応 (・) 「学習課題」あるいは「学習のめあて」	必要な資料など (◆) 伝統と文化に関わって必ず提示する資料 (㊤)	支援 (*) 留意点 (○) 評価 【但し、「地域で学ぶ強み」となる素材をどのように学習活動に組み込むのか、その支援については、㊤及び 太字ゴシック で示す。】
1 京都に縁のある短歌と俳句に出会う。	□前時の学習では「大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず天の橋立」(小式部内侍)という京都に縁のある短歌があることを知りましたね。今日も京都に縁のある短歌と俳句について学習します。	㊤京都に縁のある短歌3首と俳句2句 ㊤社会科副読本わたしたちの京都「京都の地図帳」	○学びの連続性を意図して、前時の学習を振り返る。 ○「短歌は5・7・5・7・7の31音」「俳句は5・7・5の17音で季節を表す言葉が入っている」ことについては、側面に掲示しておく。
2 本時の学習課題を把握する。	京都に縁のある短歌と俳句にはどのようなものがあるのだろう。 ◇□に当てはまる言葉(地名・場所)は何だろう。 ・短歌「世の中に山てふ山は多かれど山とは□の御山をぞいふ」(慈円)の空欄部分には何が入るかな。 ・「嵐山」が当てはまるかな。 ・でも、「嵐山」だと合わない気がするよ。 ・「比叡」だとぴったりだね。 ・短歌「のどけしな今日よりぬるむ水鳥の□の春の初風」(伴蒿蹊)の空欄部分に	㊤ワークシート ㊤京都の地名・場所(比叡・鴨の河辺・出町・嵐山・大文字・今出川)を空欄部分に当てはめる言葉としてワークシートに記載する。また、全体交流の際には、板書上で操作活動ができるようにカードにしておく。	㊤京都に縁のある短歌と俳句を提示することで、また、短歌と俳句に空欄部分を設けておくことで、本時の学習に意欲的に取り組むことができるようにする。 ㊤「今出川」は、提示する短歌と俳句に当てはまる地名・場所ではないが、子どもたちにとって馴染みのある「今出川」を選択肢の中に入れておくことで、第3時での表現活動で「今出川」を用いることも可能であることに気付くことができるようにする。

3 京都に縁のある短歌と俳句を完成させ、音読する。

- は何が入るかな。
- ・短歌「蘭干の石のつめたさ狭霧立つ□□の橋に人待ち居れば」(九条武子)の空欄部分には何が入るかな。
- ・「出町」が入るのではないかな。
- ・そうだ。「出町」の橋にで7音だね。
- ・俳句「六月や峰に雲置く□□」(松尾芭蕉)の空欄部分には何が入るかな。
- ・「今出川」かな。
- ・雲置くだから「嵐山」だよ。
- ・俳句「夜の露もえて音あり□□」(正岡子規)の空欄部分には何が入るかな。
- ・「大文字」が入るよ。
- ・きっと大文字の送り火のことだ。

- それぞれの短歌と俳句にどの言葉を当てはめたのかを確かめ、完成した短歌と俳句を音読しましょう。
- ・「世の中に山てふ山は多かれど山とは比叡の御山をぞいふ」(慈円)
- ・「のどけしな今日よりぬるむ水鳥の鴨の河辺の春の初風」(伴蒿蹊)
- ・「蘭干の石のつめたさ狭霧立つ出町の橋に人待ち居れば」(九条武子)
- ・「六月や峰に雲置く嵐山」(松尾芭蕉)
- ・「夜の露もえて音あり大文字」(正岡子規)
- ・私たちの知っている場所が短歌や俳句に使われているのだね。

○「個人での学び」と「ペアでの学び」を行った上で、全体で確認する場を設ける。

㊤社会科副読本わたしたちの京都「京都の地図帳」を用いることで、「比叡」「鴨の河辺(鴨川)」「出町」「嵐山」「大文字」の位置を確認することができるようにする。また、写真資料を提示することで、情景をつかむことができるようにする。

【言語についての知識・理解・技能】

京都に縁のある短歌や俳句があることに気づき、五七調や七五調のリズムをつかんで京都に縁のある短歌と俳句を読んでいる。

(音読・ワークシート)

「声に出して楽しもう」

学習課題

京都に縁のある短歌と俳句には、どのようなものがあるのだろう。

短歌

五・七・五・七・七

三十一音

世の中に山てふ山は多かれど山とは

の御山をぞいふ (慈円)

比叡

写真資料

比叡山

のどけしな今日よりぬるむ水鳥の

の春の初風 (伴蒿蹊)

鴨の河辺

写真資料

鴨川

蘭干の石のつめたさ狭霧立つ

の橋に人待ち居れば (九条武子)

出町

写真資料

出町

俳句

五・七・五

十七音

季節を表す言葉が入っている

六月や峰に雲置く

(松尾芭蕉)

嵐山

写真資料

嵐山

夜の露もえて音あり

(正岡子規)

大文字

写真資料

大文字

に当てはまる言葉はどれだろう。…

比叡・鴨の河辺・出町
嵐山・大文字・今出川

- 1 日 時 平成○年○月○日 (○) ○校時
- 2 単元名 「声に出して楽しもう」
- 3 単元の目標 知っている言葉を手がかりに情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取ったりしながら短歌や俳句を音読し、文語の調子に親しむことができるようにする。
- 4 本時の目標 京都の地名・場所、五七調や七五調のリズム、季節を意識して、短歌と俳句を書き表す。
- 5 本時の展開 3 / 3時間

学習活動	主な発問 (◇) 主な指示 (□) 予想される児童の反応 (・) 「学習課題」あるいは「学習のめあて」	必要な資料など (◆) 伝統と文化に関わって必ず提示する資料 (㊤)	支援 (*) 留意点 (○) 評価 【但し、「地域で学ぶ強み」となる素材をどのように学習活動に組み込むのか、その支援については、㊤及び 太字ゴシック で示す。】
1 京都にはいろいろな地名や場所があることを学習経験や生活経験をもとに振り返る。	◇京都には、どのような地名や場所があるだろう。 ・○○小学校があるね。 ・大文字山があるよ。 ・鴨川もあるね。 ・御所もあるよ。 ・今出川もあるね。	㊤社会科副読本わたしたちの京都「京都の地図帳」	㊤前時の学習を振り返ることで、京都にはすてきなところがたくさんあり、それらが短歌や俳句の中でよまれていることを確かめることができるようにする。 ㊤短歌や俳句を表現する際には、社会科副読本わたしたちの京都「京都の地図帳」を用いることで、京都に縁のある短歌や俳句をつくり、子どもたち自らがそれらに親しめるようにする。
2 京都の地名や場所を使って、短歌や俳句をつくる。	京都のすてきが伝わる短歌や俳句をつくろう。 ・私は、今出川を使いたいな。 ・ぼくは、室町を使おうと考えているよ。 ・僕は、御所を使おうと考えているよ。 ・御所は、 道徳の学習でも出てきたよね。 ・たしか、「時代祭」の行列が出発するところだったね。 ・私は、春の遠足で大文字山に登ったから、 大文字を使おうと思っているよ。	◆ワークシート ◆国語 三 (上) わかば 30・31 ページのきせつの言葉「春の楽しみ」、62・63 ページのきせつの言葉「夏の楽しみ」、118・119 ページのきせつの言葉「秋の楽しみ」 ◆国語 三 (下) おおぞら 68・69 ページのきせつの言葉「冬の楽しみ」 ◆短冊	○【常時活動として】社会科の学習と関連付けて、自分が気に入っている京都の地名や場所をノートに記録しておくことで、それらを意識した短歌や俳句をつくることができるようにする。 *ワークシートを用意しておくことで、短歌や俳句に使用したい言葉を書き出すことができるようにする。 *俳句をつくる際には、季節を表す言葉を入れる。そこで、国語 三 (上) わかば 30・31 ページのきせつの言葉「春の楽しみ」、62・63 ページのきせつの言葉「夏

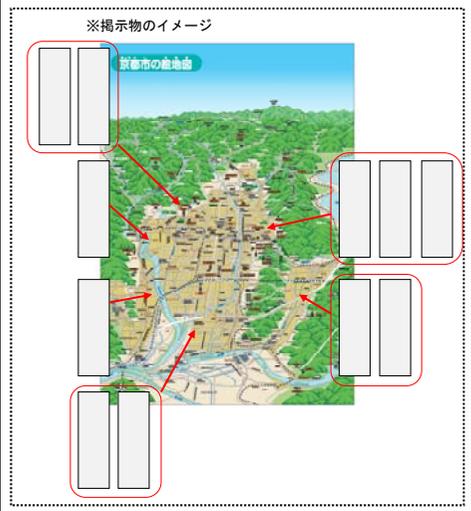
3 短歌や俳句を短冊に書き表す。

4 書き表した短歌や俳句を詠む。

- ・〇〇〇神社の〇〇〇を使おうかな。
 - ・鴨川を使うのも良さそうだね。
 - ・御所に合う言葉は何かな。
 - ・紅葉が合いそうだよ。
- 一人ひとりがつくった短歌や俳句を短冊に書きましょう。
- ・「春の日に 上御霊の 祭よし」
 - ・「いつもなら 普通に通り 今出川 学びの後は とても気になる」
 - ・「室町は すてきな地域 大好きだ 祭もあるし 僕らの誇り」
- 自分がつくったり、友だちがつくったりした短歌と俳句を詠んだ感想を交流しましょう。
- ・どの作品もみんなすてきだね。
 - ・自分たちが知っている地名や場所が短歌や俳句に入っていると嬉しいね。

きせつの言葉

<p>秋</p> <p>十五夜 中秋の名月 月見だんご 秋の七草 すすき かき</p>	<p>春</p> <p>そのよしの やまざくら 花見だんご さくらもち たけのこ かしわもち こいのぼり</p>
<p>冬</p> <p>しわす おむすし 大みそか じよのかね 初日の出 節分</p>	<p>夏</p> <p>セタ たんざく 天の川 そうめん せみ かぶとむし くわがたむし</p>



◆模造紙大に拡大した「京都の地図帳」
⇒地図は「京都の地図帳」(教材研究所)

の楽しみ」, 118・119 ページのきせつの言葉「秋の楽しみ」, 国語 三(下) おおぞら 68・69 ページのきせつの言葉「冬の楽しみ」を側面に掲示することで、季節の言葉を想起したり、見つけたりできるようにする。

○つくった短歌や俳句は、短冊に表現するように声かけをする。

【言語についての知識・理解・技能】

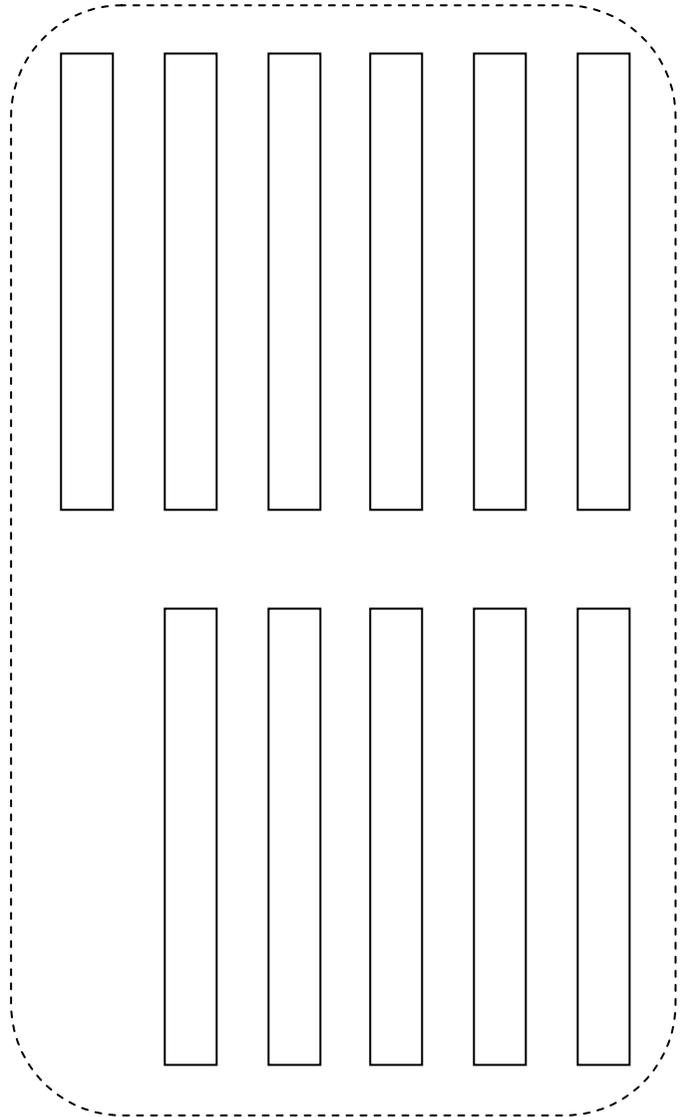
京都の地名・場所、五七調や七五調のリズム、季節を意識して、短歌と俳句を表現している。
(音読・ワークシート)

○児童がつくった短歌や俳句の短冊は、それぞれの作品に書かれている地名・場所と「京都の地図帳」の地名・場所とを照らし合わせて貼り、掲示する。

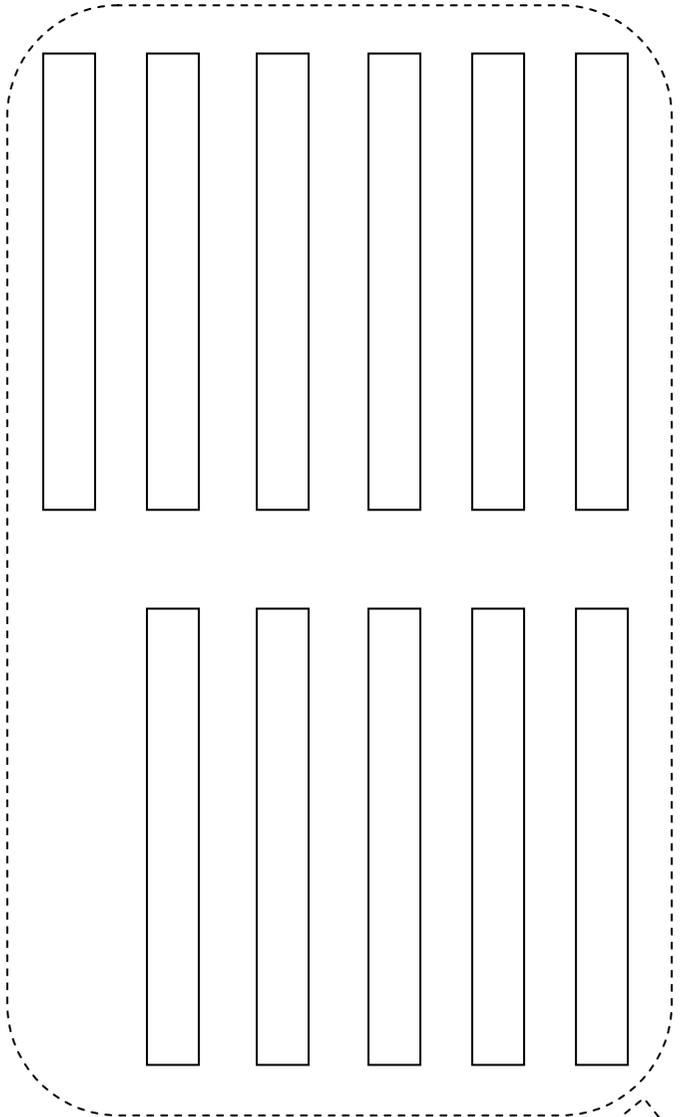
「声に出して楽しもう」

学習のめあて 京都のすてきが伝わる短歌や俳句をつくろう。

短歌…五・七・五・七・七
三十一音



俳句…五・七・五
十七音
季節を表す言葉が入っている



※児童の作品は全員分掲示する。

【ワークシート第1時】
「声に出して読もう」

名前)

がくしゅうかだい
学習課題

--

短歌

俳句

気に入った短歌や俳句に
④マークをつけましょう。
気に入った理由は…

--	--	--	--	--	--	--	--

--

に当てはまる言葉はどれだろう。…

痩せ蛙がえる

春の日にはるひ

天の河あまがわ

ひさかた ひかり
久方の光のどけき

しずみろ
静心なく花の散るらむ

きのどものり
(紀友則)

あま はらふ
天の原振りさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも

あべ なかまろ
(安倍仲磨)

おおえやま
大江山いく野の道の遠ければまだふみも見ず

こしきぶのなしいし
(小式部内侍)

さいが
さみだれや大河を前に家二軒 (与謝蕪村)

まけるな一茶これにあり (小林一茶)

あらかみ
荒海や佐渡によこたふ

まつおばしろう
(松尾芭蕉)

【ワークシート第2時】

「声に出して読もう」

名前)

がくしゅうかだい
学習課題

短歌

らんかん いし
蘭干の石のつめたさ狭霧立つ

[Blank box for reading]

はし ひとま い
の橋に人待ち居れば (九条武子)

きょう
のどけしな今日よりぬるむ水鳥の

[Blank box for reading]

はる はつかぜ ばんこうけい
の春の初風 (伴蒿蹊)

よ なか やま やま おお やま
世の中に山てふ山は多かれど山とは

[Blank box for reading]

みやま じえん
の御山をぞいふ (慈円)

俳句

ろくがつ みね くもお
六月や峰に雲置く

[Blank box for reading]

まつおばしやう
(松尾芭蕉)

よる つゆ おと
夜の露もえて音あり

[Blank box for reading]

まさおかしき
(正岡子規)

にあ ことば
に当てはまる言葉はどれだろう。...

- 鴨の河辺
- 比叡
- 今出川
- 出町
- 大文字
- 嵐山

気に入った短歌や俳句に
④マークをつけましょう。
気に入った理由は…

[Dashed lines for writing reasons]

【ワークシート第3時】

「声に出して楽しもう」

名前)

がくしゅうかだい
学習課題・めあて

--

短歌

--

--

--

俳句

--

--

--